

青森県から考える世界・日本のエネルギーのこと
青森県立百石高等学校
普通科 2年 箕輪 ヴィヴィアン 玲亜

今日まで、東日本大震災をきっかけに原子力発電への人々の不満は一方的に増え続けている。それもそのはず「放射能が含まれている。そしてその放射能は人々に害がある」という怖い認識と原子力への対応の不順によって、人々は恐怖・不安・不信感を抱いているためである。しかし私は「原子力が未来を助けるカギになるんだ」ということを日本と世界に伝えたいのである。

では、原子力発電がなぜ未来を救うなんてことが言えるのか。それは、現在日本はエネルギー自給率が先進国 35 カ国中ワースト 2 位という結果であり、日本で使われているエネルギー資源のほとんどを他国からの輸入でカバーされているという状況であるのだ。この状況が続いてしまうとどうなるのか？ 車も飛行機も乗れない、電気が止まり、生活ができないという大困難を招くことになるだろう。

その危機を招かないためにはどうするべきか。やはり、自給自足であるに違いない。そこで、現在日本が取り組んでいる方法としては、最近よく耳にする自然のエネルギーを大幅に活用する太陽光発電、風力発電、再生可能エネルギー。そしてこの再生可能エネルギーの比率を増やしつつ、同時に「原子力発電所」を再稼働させるという取り組みが現在新たに予定されている。再稼働させることで自給率を向上させるという方針だ。そう、ここで原子力発電が登場するのだ。詳しく説明すると、例えば再生可能エネルギーは太陽の光や川の水、風を資源としているため、国産のエネルギーとしてイメージできると思うが、原子力も燃料をリサイクルすることができるため、「準国産」として自給率に組み込むことができるのである。

しかしそうはいつでも、原子力の課題はもちろんある。電力をどれだけ安定して供給できるか、発電にかかるコスト、環境での影響などが課題としてあげられる。だがこれらを考慮することができたならば、原子力はとても重要な資源の一つとして必要になるはずだ。

そして、ここでもう一度、現在世界で抱えているエネルギー問題について、もう一つ伝えておきたい。皆さんは、今や中・高の授業やテレビでよく耳にするであろう環境問題の一つ「地球温暖化」が、エネルギー問題にもつながっているということをご存じだろうか。そもそも、世界各国で使われ、日本にも輸入されているエネルギー源というものは、石油・石炭・天然ガスといった化石燃料である。地球温暖化の主な原因は二酸化炭素であるのだが、この化石燃料の利用が急速に増大したことに伴い、二酸化炭素の排出量も大幅に増え続けて

いるというのだ。つまり、現在のエネルギー源を今後も使い続けるとするのなら、地球温暖化をも私たちがさらにすすめてしまうことになる。

では、この世界的課題を変えるために、行うべき手段というと、現在日本で行われている自然を利用した発電方法と、もう一つ、「原子力」なのである。脱炭素の重要性が叫ばれている今だからこそ、日本が先頭に立ち脱炭素の実現に近づくことのできるこの手段を広げていくべきではないだろうか。

まだまだ日本でも、もちろん世界でも、原子力についてプラスの考えを持っている人は少ないだろう。しかし、一人でも多くの人が少しずつ原子力の未来について耳を傾け、また原子力のあり方を変えることができたならば、日本からこの大きな二つのエネルギー問題を、地球温暖化を変えるカギが生まれるのではないだろうかと思はう。

そして、最後に私たち青森県の高校生ができることはというと、11年前の東日本大震災で大きな被害を受け、目の当たりにし、また私がこのように書き上げた「原子力発電」の被害を受けた方々に寄り添いながら「大震災のことと原子力の過去・未来」について次の世代の子どもたち、またその次の子どもたちにも伝え続けていくべきなのではないかと考えたのである。

一日でも早く、この「原子力発電」という新たなエネルギーの未来が、人々と動物の暮らしを安心・安全なものへと導いていくことを願っていきたい。